昭和37年　豊川地区簡易水道通水時の思い出
『豊川区開基百年記念誌　ふるさと』掲載

３　豊川の水道

豊川では主に井戸水を利用し、洗濯などは常呂川の水を利用して生活していたが、昭和28年頃から始まった土地改良事業が進み、第一幹線排水の床上げにより水位が下がり、井戸水にも不足をきたすようになった。特に夏季、冬季にはあちこちに水涸れの井戸が出るほどとなり、学校の井戸も無水の状態となり、児童生徒が登校時、水を入れた水筒を下げて登校した。

また、部落内では水を求めてあちこちボーリングが行われたが、水質不良のため飲用水には適さなかった。このためその対策として水道を施設すべく近藤実区長を中心として、部落の有志数名が公民館に集まり、水道施設について協議し、その結果、期成会を結成して強力に運動を展開することになった。

昭和36年３月、期成会は町当局に対して豊川地区における水の現況と、これに伴う水道施設の陳情書の提出、さらに水質検査を実施した。その結果、飲料水に適することが判明し、また水量も十分であることが分かり、16号、17号間の基線付近の湧水を利用して水道工事に着手することに決定した。10月24日、起工式を行い、10月28日には完成通水式が行われた。翌昭和37年１月19日、川沿小学校において盛大にその落成式を挙行し、同時に期成会を解散、新たに豊川水道組合を結成…。（略）

当時の地区簡易水道の規模は給水人口615人、吸水量１日126万立方メートル…（略）　その後、昭和43年４月14日、豊川簡易水道組合第７回定期総会を開催し、町移管を決定した。

＊注：昭和52年１月17日広域簡易水道（吉野浄水場）の通水式が行われ、豊川地区は同年４月から給水され現在に至っている

「思い出すままに」（抜粋）　高橋久雄

（略）次に水道のことですが、豊川では主に井戸水を利用していたのですが水質が悪く、婦人の方々は昼休みを利用して常呂川へ洗濯に行ったり、また28年頃からの土地改良事業による水位の低下から水不足が起きて「カラカラ」井戸も生ずる状態でした。

そのため当時の近藤実区長さんが中心となり、豊川郵便局長の斉藤千秋さん、商店主の森本勝さん、豊川の有志数名が協議して期成会を結成し、基線16号のイワケシュ山のふもとの湧き水を利用することとし、網走保健所の水質検査を受け飲料水に適するという許可を受けました。水量については、手塚技手および岸本水道課長の検査により十分あることが分かったので、10月24日起工式を行い、水源地の井戸掘りなどは昼夜を徹して青年の人たちに尽力いただき、水道工事も順次進行して、10月28日には各戸の蛇口からきれいな水が出るようになって、正月の「餅」もこの水を使用することができました。（略）

「世代の流れに思うこと」（抜粋）　江田隆甫

（注）豊川の地は低地ですので、飲料水はあるのですがいたるところで水質が悪く、金気をおびていて水は赤く、洗濯する時は砂で漉し水をして使いました。良質の水が出るところは限られていて、神社の水と長浜さんの井戸水は良い水が出ました。小学校の井戸水も水質が金気をおびていて、時々水涸れをすることがあり、先生、生徒も苦労しました。（略）

「第二の故郷」（抜粋）　相沢よね

（略）昭和12年４月上旬、網走高女の補習科を卒業した18才の私が赴任を命じられたのが、常呂町立川沿尋常小学校でした。（略）

まわりには諸岡さん、郵便局、牧野さん、瀬越さん、原田さんとあるのみで、皆さん水が悪く、四斗樽に「こも、砂、小石」などを入れてろ過し、飲料水にしていて、ポンプ井戸できれいな水をジャンジャン使っていた私には慣れるのに少々苦労したものでした。（略）

「常呂川沿小学校」（抜粋）　相沢よね

＊注：「川沿小学校開校90周年記念誌」掲載

（略）水の不自由な所で下宿した長尾さんで、四斗樽に小石、砂、ムシロなどを入れ、濁った井戸水を浄化し一升びんに入れ、井戸に吊して飲んだり、水涸れ頃には生徒さんが五合びんや二合びんに水を入れて持参したものでした。当時、岡崎重吉さんが生徒玄関先の場所に井戸掘りさんを頼んだりご自分が来たり、娘のミサちゃんが来て、みんなのために良い水を出そうと努力されていた姿が思い出されます。（略）

「おめでとう豊川」（抜粋）　原田よしの

（略）特別な思い出の一つは、豊川の水涸れでしょうか。娘の産湯すら雪を溶かして使ったほどに散々な思いをさせられたその水が、今は暦日の年数はさだかではありませんが、多分36～37年頃だったでしょうか、当時としては想像もつかない簡易水道が、先進的な発想を持つ区長の手腕によって計画され、完成されたのです。

初めて見る水道管の蛇口から大自然にみがかれたまろやかな水が、限りなく放水された時の歓喜は何物にもまさる喜びであり、永久に胸打つ感銘の一つであり、かつ永久に忘れ去ることのできない、豊川百年の中の貴重な私の思い出なのであります。（略）

「豊川での思い出」（抜粋）　馬渕孝幸

（略）私は昭和４年に上川沿で出生し、今年で66才となりました…（略）私たちの育った少年時代はたいていの家が農家だったので、子どもたちは遊ぶのと同時に畑仕事を手伝うのも大切なことでした。（略）

冬になると井戸水が少なくなってしまうので、飲料水はもちろん、家畜の飲み水は馬そりにドラム缶を積んで常呂川に水汲みに行ったことなど、子ども心にもつらい手伝いでしたが、今では楽しい貴重な思い出となっております。（略）